

11 月度木曜例会(2017 年 11 月 2 日)

ミネアポリス訪問団との例会・ワークショップ 於ローズワム

ミネアポリス訪問団を招いてトーク、着付け、茶会

茨木市の姉妹都市、ミネアポリスからの訪問団 10 人を迎えて IIN では 11 月 2 日、ローズワムと一緒にフリートークと昼食会を楽しみ、午後からは訪問団の一行に日本文化を代表する着物の着付けと茶道を体験してもらいました。着物姿がよく似合う訪問団の女性が多く、「ビューティフル！」の声。茶道では四季の色を表現したお菓子を味わい、お手前に挑戦し、日本情緒を味わっていました。すっかり、洋風化した日本人にも、日本文化の優雅さ、繊細さを改めて感じさせてくれました。



再会を喜び、末永い友好を誓って記念撮影

グループトーク

午前 9 時半、地下のローズホールに訪問団の皆さんを迎えました。

訪問団は茨木市国際親善都市協会との交流で 10 月末に来日、すでに京都観光や茨木神社などを訪れていること、今年は IIN が発足して 35 周年にあたり、この日、訪問団を招待したこと、過去、3 年間の訪問団同士の再会 (reunion) も兼ねていることを IIN の委員長が説明し「この友情・友好の絆を一層強くし、末



グループごとに楽しい会話はずみました

永く続けていきたいと思っております」とあいさつしました。

訪問団一行の自己紹介に続いてグループを10班に分け、フリートーキング。15分経つごとにベルが鳴り、訪問団のメンバーが交代しました。

あるグループでは「日本でのボディーランゲージにはどんなものがありますか」という質問に、舌を出すアッカンベーや子供のころにやったクルクルパーのしぐさ、自分を示すときは日本では鼻の頭を指さすこと、数字を数える時の指の折り方が日米では異なる、など違いの面白さを紹介し合いました。

訪問団の女性の一人は、東京など旅先で立ち止まっていると、周りにいた日本人がいつも「Can I help you?」などと声をかけてくれたので、一度も道に迷わなかった、などと親切さに感激。また、茨木神社で7・5・3のお宮参りの親子を見たが、かわいくて日本的なすばらしい習慣だ、と話しました。「日本の紅葉はほんとに美しい」「ラーメンの上にやわらかいタケノコが載っており、初めて食べたが、おいしかった」等々。

ただ、日本では自転車でスピードを出したまま道を走る人が多く、「危ない、怖い!」という声。アメリカでは自転車専用道路がある、ということです。



記念撮影を楽しむ人や自作の英語かるたを見せる会員（左）など、あちこちで交流がありました

昼食会

昼食会はオードブル風の食事。リラックスムードの中で歓談しました。一皿食べ終わるごとに、好きなものを取りに行くので会話の機会が多く、談笑する人、写真を撮るグループ、シェイクスピアカルタをゲストに見せる人など楽しそうな光景が見られました。2時間も英語で話し続けて空腹だったせいかわざら皆さん、食欲もかなり盛んなようでした。



着付け

着物の着付けでは、まず、担当者が未婚の女性が着るあでやかな振袖と、通常、結婚した人が着る袖丈の短かい留袖との違い、花や吉兆を現す鳳凰などの紋様、季節と和服との関係などについて説明しました。

また、着物は高価なので、着物のレンタルショップが人気で、京都などではこれを着て街歩きを楽しむ人が増えている。レンタル料は 3000 円くらいから、といったことを紹介しました。



着付けとその様子を見る訪問団の人たち



「着物を着るときは右前にしますが、死んで棺桶に入ったら左前になります」と、着付け担当者が、着物をたたむときの注意を話すと、「オーノー」と驚きの声があがりました。

帯の結び方は、モデルを使って実演。担当者が「帯締めには力がいらいます」と話すと、訪問団の女性の一人、Mさんが「あなたは力持ちで元気ですねえ」と感心。Mさんこそ、いつも明るく元気なだけに、IINの会員の一人が「You too!」と返すと会場は笑いに包まれました。着物姿が似合う人が多く、「みんなきれい。よく似合っている!」と会員の間から感嘆の声が聞かれました。

茶道お点前



千利休によって大成されたという茶の湯の精神、それを継いだ裏千家、表千家などの家元があるといった説明があり、一人がお点前に挑戦しました=写真左。

茶菓子では、担当者がだいたい色、黄色など5種類のお菓子（まんじゅう）を示し、「それぞれは何を現していると思いますか?」と質問=写真右。だいたい色は落ち葉や柿を現し、その上に載せた小さな菊は秋を代表する花。季節ごとの色を愛でて、目でも楽しむのが日本的な感覚と説明しました。





着物姿に変身した訪問団と着付け担当、役員の皆さん